

3月29日に京都府より 福祉人材育成認証を受けました

介護事業部長 阿部 未知

「きょうと福祉人材育成認証制度」は、京都府の定める4分野17項目の認証基準をすべてクリアした人材の育成・定着に取り組む事業所が認証されます。

介護・福祉従事者が安心して働き続けられる職場であること、未来を託せる職場であることを示すことができる基準を満たせるとなっております。

今まで以上に働きがいと働きやすさが両立する職場づくりへ職員一同力をあわせて進めていきます。また地域のためにできることを、民医連内外の方々とも広く交流しながら、地域にお役にたてる介護事業所をめざします。今日も元気にヘルパーや看護師、デイサービス職員が利用者さんのそばにまいります。これからもよろしくお願ひします。



医療・介護から、 人権を考える学習会開催

看護部長 松浦とさえ

3月5日、新築の咲あん上京で、「認知症を支える



ネットワークを考えよう」の学習・交流会を地域包括ケア推進PJ委員会が開催しました。

認知症認定看護師から、認知症かな? と思っただけは外来で相談、そして専門医へ繋げる報告があり、中央病院リエゾンチームからは、病棟でのせん妄症状へのとりまき、あやべ協立診認知症カフェの報告では、地域と繋がることの重要性を考えさせられ、乾隆地域包括支援センターから事例の報告を受けました。

4つの報告を受け、地域でその人らしく生活するには、関わりのある人の連携・支えが大切で、私たちは、介護と医療で連携している強みをもっと活かすことを意見交換しました。そして、私たちのネットワークの特徴は、「人権を尊重する地域包括ケア」であることを再確認する機会となりました。

3月17日、かどの三条こども診療所で4回目の小児科診(かみの・吉祥院・かどの合同学習会が開催されました。「子どもの貧困」をテーマに、佛教大学武内一教授を講師に31名が学びました。



講師から、貧困は子どもの健康を害するが、医療関係者、一般にも認識されていけないこと。予防接種が遅れがちで任意接種は受けない傾向、時間外の受診やタイムイングを過ぎた受診、経済的理由で受診を控えた事例も紹介されました。

参加者からは、「貧困を訴えて受

診はしない」という言葉が印象に残る」「子育ては家族の問題」という流れを変えないと日本は変わらない」と。深刻さを増す子どもの貧困に、人権のアンテナ感を高めようと改めて思った学習会でした。

訪問看護ステーション かみのです!

訪問看護ステーションかみの 所長 中島 詠子

2016年3月7日より、西京区にある上野橋のすぐそばの、かみの診療所の友の会室を一部改装し、訪問看護の事業所を開設しました。

訪問看護とは、たとえ病気になっても、障害を持つことになっても、医療的な機器や処置が必要になっても、終末期の状態でも、住み慣れた我が家で自分らしく暮らしたい、そんな思いを実現させるために支援させていただくサービスです。京都民医連介護事業では初めての地域での活動ですが、今まで培ってきた専門的な知識と技術を活用し、安心・満足の看護を提供したいと思っています。

民医連の無差別平等の理念を大切に、どのような境遇に置かれた方に対しても、制度を活用し、知恵を働かせ、必要な看護が提供できるように、ほかの組織の訪問看護事業所にはない、利用者の権利を勝ち取るために戦う看護師集団としてがんばっていききたいと思います。

春の訪れのように、私たち看護師が明るく温かい風をご家庭にお届けします。

